「南高スタイル」

「自由」「規律」「友情」

令和6年1月9日
弘前南高校
1年次通信 No.8

「桜の幹になりなさい・・」とは

「君たちは、桜の花になってはいけない・・・。

・・・なぜなら、花は一瞬で散ってしまうからです。

それよりも、桜の幹になりなさい。」

以前勤務していた学校の卒業式で、父母と教師の会会長（PTA会長）が卒業生に向けて送ったメッセージです。考えさせられる深い内容だったので、みなさんに紹介いたします。

若い皆さんにとって今大事なことは、花を咲かせることよりも、その基礎土台となる「幹」をしっかり育てることだ、という意味ではないかと思います。しかし、「花を咲かせなさい」と言うものだと思っていた自分にとっては「花になってはいけない」という冒頭の言葉にびっくりしたことを覚えています。しかしその後、花ではなく、「幹になる」とはどういうことなのか、深く考えさせられました。

これから冬の寒さが一層厳しくなりそうですが、ふと校庭に目をやると、葉が散ってしまった桜の木がひっそりと雪原に立って印象的です。

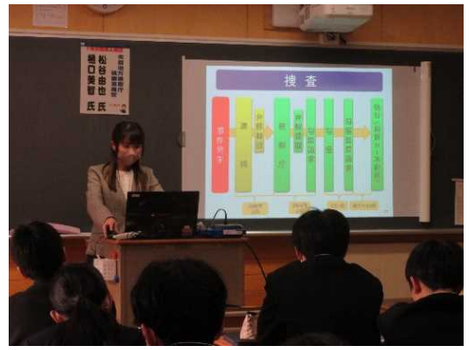
一年に成長輪が一つずつ太くなったものを年輪といいます。輪状に見えるのは、春には幹の肥大成長が盛んになり、夏にはゆっくりになるためであり、色の濃い部分は細胞壁が密に、色の薄い部分は細胞壁が疎（そ）になっているからなのだそうです。この冬から春にかけて、我慢する期間があるからこそ、その後の寒暖の差で年輪が刻まれます。それは枝や葉、花を支えるための大事な時期であり、大きく成長する時期でもあるのです。

３月までの3ヶ月間は、部活動の大会がほとんどなく、いわゆるオフシーズンとなります。先ほどの「桜の幹」に例えるならば、この時期は花ではなく、基礎学力という幹を太く、力強く築き上げることができる大切な時期ということになるでしょう。部活動をやっている生徒にとっては尚更、1年間で一番勉強に対してしっかり向き合える、大事な期間なのです。

人はいつまでも学び続けなければならないといいます。なぜなら、学ぶことを中断した瞬間、人としての成長、進歩を止めてしまうからです。そう考えると、学ぶことから逃げてはいけないと改めて思い知らされます。今逃げても、その代償は未来の自分に雪だるま式に膨れ上がって返ってくるのではないでしょうか。いま頑張ることは、すぐには結果に結びつかないかもしれませんが、未来の自分への投資と考えて、自らの限界にチャレンジして欲しいと思います。この冬から春にかけて確かな年輪を刻み、その太い幹がもたらす揺るぎない自信が、今後の皆さんをいつまでも支え続けるでしょう。

「職業人講話」

実際に働いている経験豊富な社会人の方々から、働くことの意義を学ぶことは、将来の明確な目的意識や進路選択にとって、とても重要なことです。11月初旬「職業人講話」と題し、県庁、県警、青森地方検察庁、理学療法士、看護師、管理栄養士、福祉関係、保育士、銀行、自衛隊など様々な職種の方々から講演していただきました。生徒は自分が興味のある職種2つを選択し受講しました。



私は介護の現状について興味があり、「訪問介護事業所ハッピーiwaki」の管理者である、高山恭平氏の講演を生徒とともに受講いたしました。

介護施設は特別養護老人ホームやグループホームなど9種類の施設があり（それほどあるとは知らなかった）それぞれ役割が違うこと。また、「趣味×介護」と題し、「自分の好きなことや得意なことを仕事にすることによって、仕事を楽しみ、自分の価値が生み出せる」などと投げかけ、生徒も介護の現場で働くことの意義を実感したようです。

私が高校生の時には、このような講演会はほとんど無かったと思うのですが、もしあったなら、現在の職業を選択していたかどうか大きな影響があったと思います。生徒はどの講座も熱心に受講し、今後の進路選択に向けて大いに参考になったようです。

1 年次通信は弘前南高校 HP でも閲覧できます。
http://www.hirosakiminami-h.asn.ed.jp/